

(平成23年6月15日開設以降平成28年10月31日現在)

図2 北海道医師会女性医師等支援相談窓口の実績

声が非常に多い。さらに病児保育も可能であれば設置してほしいとの希望も多々ある。

医療施設に女性医師は平成26年度で1,803人が従事している。札幌市に60.6%が集中、札幌市、旭川市、函館市の道内3大都市に77.2%が集中している。診療科においても皮膚科、眼科、麻酔科、小児科、産婦人科を選択することが多く、男性医師より診療科の偏在が顕著である(図3)。

今年の日医総研のアンケートで若手医師の診療科選択プロセスに関する調査では、医局の雰囲気、人間関係の良さを挙げる割合が多く、女性医師の場合、結婚や子育てとの両立がしやすいことを重視する傾向が見られた。ワークライフバランスを実現しやすいような対策が大事で、女性医師の活躍の場を広げることこそが、医師の偏在問題を解消する鍵と強調している。

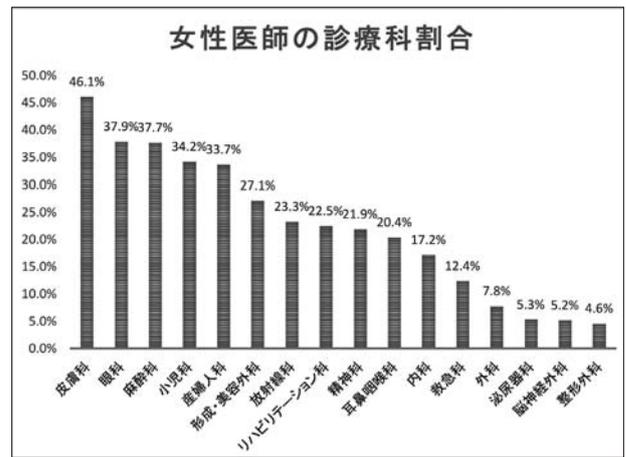


図3 女性医師の診療科割合

まとめ

北海道における僻地医療は何十年経過しても本質的には改善しておらず、各自治体は未だに医師不足に悩まされている。

そのような中で国も道も医師不足問題にさまざまな対策を講じており、効果を上げている施策も種々あるが、根本の解決にはまだ道のりは遠いものと感じられる。

各医療機関は、女性医師を含めた勤務医の勤務環境の改善を、極端な医師不足地域には今回示した国や北海道の医師確保対策事業なども最大限活用していただきたいと思っている。女性医師も長期に休業することなく仕事を継続することで、医師としての知識や技術を高め、地域医療にも貢献してくれることを期待している。

平成28年秋の叙勲・褒章受章者(北海道医師会員)

先般、平成28年秋の叙勲・褒章受章者が発表され、当会会員で以下の方々が叙勲の栄誉に浴されました。ここに受章者の方々のご功績をたたえ、謹んでご芳名を掲載させていただきます(敬称略)。

受章者各位には、心からお祝いを申し上げます。

◇旭日双光章

須貝 基信 元(社)滝川市医師会理事
保健衛生功労

◇瑞宝中綬章

石井 清一 札幌医科大学名誉教授
教育研究功労

◇瑞宝小綬章

前田 喜晴 元 伊達赤十字病院長
保健衛生功労

◇瑞宝双光章

高下 泰三 現 学校医
学校保健功労

◇瑞宝双光章

山敷 宏平 元 学校医
学校保健功労